

2021年度 事業報告書

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

《概要》

2021年度は、夏に東京オリンピック（7/23～8/8）と東京パラリンピック（8/26～9/5）が開催されましたが、前年度に引き続きコロナ禍による「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」の繰り返しで事業の面でも大きな狂いを生じました。

本年は、4人の新しい理事を加え8名でスタートしましたが、9月に大貫理事が辞任され理事は7名となり市社協から阿部真由美さんにオブザーバーとして参加いただきました。

当協会の事業計画のうち、市民桜まつり、夏のボランティア養成講座、ボウリング大会は中止しました。10月のほかほかふれあいフェスタは、広場、ホールや館内活動は中止とし展示だけとしましたが、11月の障害者週間キャンペーンは実施しました。

主な事業で「ハンディキャブ」、「傾聴」、「事務局」の活動はまん延防止等の期間中の活動は原則コロナワクチンを2回接種した人としました。「ぼらんていあ通信、ホームページ」は休みなく発刊し「わくわく」は50号で休刊としました。その他の活動では、「家具転倒防止」、「若者サポート」、「高齢者住まい探し相談会」、「切手グループ」などコロナ禍にも拘らず休みなく活動しました。

2021年度新しく取り組んだことは、相模原市のSDGsを基本とする相模原市の未来の設計図に因んで「SDGsとボランティア活動」というテーマで「春講座」を3月19日に開催しました。そして相模原市のSDGsのサポーターに登録しました。

次に、2021年6月にボラ協創立40周年を迎え、「40周年記念誌」をDVD制作実行委員会で作りました。

さらに、1月に「ボラ協を考える」というテーマで将来の当協会の在り方を検討しました。このテーマはこれからも継続して検討していきたいと思えます。

2021年度は、2020年度に引き続き大変な年でしたが無事乗り切れたのも会員の皆様の努力の結果と思えます。本当にご苦労様でした。

《特定非営利活動にかかわる事業報告》

1. ボランティア活動の総括

コロナ禍の中ではありましたが、ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していく事を目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いも実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。なお感染予防対策のため一部は中止あるいは縮小や内容変更の形での実施となりました。

《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
HC事業活動	743名	552名		運転及び介助ボランティア
交流事業				
・市民桜まつり	—	—	—	中止
・ほかほかふれあいフェスタ (障害者週間キャンペーン)	2,000名	10名	90名	中止 (ロビー展のみ開催)
・新春ボウリング大会	—	—	—	中止
傾聴ボランティア活動	206回	420名		対象者24名、活動者28名
ボランティア養成講座	—	—	—	中止
広報活動	—	129名	43名	月刊、季刊誌、ホームページ
事務局	—	633名	庶務319人・HC調整業務314人(月～土)	

2. 高齢者、障がい者への援助活動

(1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の協会保有車いす対応車両と自家用セダン型車を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ552回に及ぶ運行を行いました。8月～9月には緊急事態宣言が発令されましたがボランティアをワクチン2回接種者に限定するとともに、車内の消毒・換気、運転者・利用者に対する検温・手指消毒といった感染対策を徹底の上運行事業を継続しました。その他小中学校の「みんないいひと福祉体験講座」にも参加をしています。

《2021年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	552件 (186)	743名 (233)	552名 (186)	0名 (0)
学校協力事業	体験学習など	0件			

[ハンディキャブ新規利用者訪問]

事務局の活動として行う新規利用者訪問はHC運行事業の基本となるもので、訪問時に「申し込みのキッカケ」を聞き、身体状況の把握、利用の必要性、利用の目的などを把握して、利用会員入会申込を受付けます。2020年度は緊急事態宣言による事務局閉鎖及び感染予防対策として訪問を制限しましたので、入会数は少なくなっています。同様の理由により前年度保留とした分を2021年度で対応しました。

2021年度3月の利用会員総数は53名となっています。新規利用者訪問を保留している8名については4月より訪問の予定を立てています。

・新規利用者訪問実施状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
申 込	42	19	19	12	25
訪 問	31	11	14	5	5
訪問者延人数	61	22	28	5	10
入 会	30	9	13	5	5

(2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、新しい進展を得られていません。ぼらんていあ通信でボランティア団体を紹介する記事を掲載しました。

さらに市民桜まつりは中止となり、ほかほかふれあいフェスタは内容を大幅に縮小しての開催、ボウリング大会の中止等交流事業はほとんど実施できない状況でした。

(イ) 市民桜まつり

市民桜まつりは開催中止となりました。

(ロ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2021」は、新型コロナウイルス感染予防のため10月16日のイベント開催を中止とし、あじさい会館でのロビー展示(10月10日～10月16日)のみとしました、内容は参加団体の活動紹介の他、相模原養護学校の生徒の作品展示、相模原市中心の輪を広げる体験作文及び障害者週間のポスター入賞作品の展示を行いました。

さらに、11月27日には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのキャンペーンを実施し、約2,000名の方にPRしました。主な催しは、障害者理解の為のパネル展示、啓発チラシの配布(除菌シート、共に生きるの缶バッジを同封)、手工芸品の販売、イベントとして相模原市障害者とダンスを楽しむ会の車いすダンス、銀河3世バンドの演奏、SNDPのヒップホップダンス、チョップスティックのバンド演奏、相模原よさこい合同連のよさこいソーラン、大道芸人TAKUMI さんの参加がありました。

(ハ) 障がい児者とのボウリング大会

毎年恒例となっている障がい児者との新春ボウリング大会を2月12日(土)に開催することで11月頃から準備を始め12月には開催案内を各団体に発送しましたが、1月に入ってからコロナ感染症第6波の急拡大により前年度に引き続き中止としました。

(3) 傾聴活動

当協会は、2014年度から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。在宅で外出も少なく、人と話す機会がなく孤立し、孤独になりがちな方を対象とし、月1回1時間程度、2人で訪問しお話を聴いています。介護保険や他の制度では傾聴活動は含まれておらず、このような公的な制度にない狭間をボランティア活動でカバーしています。利用の問い合わせは各地域包括支援センター、市社協ボランティアセンターや居宅介護事業所ケアマネージャーからとなっています。

今年度は緊急事態宣言下であっても活動の休止はせず、一定のワクチン接種などコロナ感染対策を織り込みながら実施しました。2021年度は、206回の傾聴活動を計画し、利用者は24名でした。直近5年間の傾聴活動の推移は次の通りです。

《直近5年間の傾聴活動の推移》

年度	活動件数	実利用者数	実活動者数	延べ活動者数	直前中止件数
2017	148	14	27	310	7
2018	158	22	32	354	27
2019	222	23	32	433	36
2020	127	19	26	266	24
2021	206	24	28	420	26

(4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

厚生労働省の委託事業・相模原市の委託事業として、NPO法人文化学習協同ネットワークが運営している「さがみはら若者サポートステーション」に対する支援・協力の一環として同組織を利用している若者が来所し、当協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務（発行物の四つ折り、封入、切手貼り等）を発送ボランティアと一緒にを行っています。作業を通して気軽に会話を交わすことで、職場での対人関係の育成訓練に寄与する事を目指しています。2021年度は延べ人数43名の参加がありました。なお、今年度は11月27日に行った「ほかほかふれあいフェスタ障害者週間キャンペーン」の記録写真撮影のためのカメラマンとして3名が追加参加しました。

注) さがみはら若者サポートステーションとは：通称「相模原サポステ」と言い働くことを中心に自立を目指す若者の“新しい自分づくり”と“しごと探し”を応援している組織

(5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止のための援助活動を相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）と協働実施しています。従来活動されていたSSVの会員が退会されたこともあり、前年度には市危機管理課の紹介もあって防災士の資格を持つ方が正会員となり、協会内で対応できる体制となりました。

2021年度は2件の依頼があり、この新体制で活動しました。

この活動は市危機管理課が作成している自治会向けのチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

(6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会（まち協）からの要請による「住まい探しサポーター」として当協会の正会員を派遣しています。2021年度、相談会は5回開催され、延べ10名を派遣しました。

なお、2020年度に新しく相模原市居住支援協議会が設立され、当協会も役員として参加しています。

3. ボランティア養成に関する活動

ボランティア活動を始める人を対象に、基礎講座、コース別講座を開催する方式による恒例の講座は、2021年度も新型コロナ感染防止を考慮して実施できませんでした。春講座についてはSDGsに関連付けてボランティア活動を紹介する講座を行いました。

開催日：2022年3月19日（土）午後2時～4時

開催場所：あじさい会館6階 第1展示室

受講対象者：SDGsやボランティアに関心のある方

参加者数：一般の参加23名、広報担当者1名、講座担当スタッフ15名

相模原市のSDGs推進室の協力も得て、SDGsのこと、様々なボランティア活動のことを体験談として各団体からお話いただきました。終了後には、各団体への個別質問のコーナーも設けました。

4. 情報発信に係わる事業

当協会の発行する「ぼらんていあ通信」は1981年以来毎月発行していて、2022年3月で通巻484号となりました。協会の予定や事業報告、講座やイベントの紹介、またボランティア団体への訪問記事、クイズ、イラストなどに加え、ボランティア募集、市社協の活動内容などを掲載しました。「理事のつぶやき」「ツイッターコーナー」「会員の広場」などでは会員の皆さんの近況などをお伝えしています。

「ぼらんていあ通信」の配布先は会員を始め、市内のボランティア団体、公民館や学校などにも配布し、情報提供を図っています。

2021年度もコロナ感染症のため、編集委員会を開催できない月もありましたが、広報委員が自宅で発送作業を行うなど、滞ることなく毎月発行できました。

季刊ボランティア情報誌「わくわく」は2021年5月発行の50号で休刊となりましたが、協会の歴史の中で、多くの人とつながり、交流したいという思いを、この「わくわく」で伝えることができたものと思います。バックナンバーのうち、後半部分については協会のホームページで閲覧できます。

協会のホームページは、協会会員がスキルアップを重ね、2021年からは会員の手でホームページを運営しています。イベントのご案内や報告など、また「ぼらんていあ通信」などは発行されるとすぐにアップ作業を行い皆さまにお届けしています。

また、相模原市民が自由に利用できるポータルサイト“さがポ”にも、協会のホームページを開設していて、情報発信に努めています。

フェイスブックは、近年SNSでの情報発信の需要に応じ、2021年9月に開設しました。情報誌「ぼらんていあ通信」や、ボランティア募集、また対外活動などをアップし、協会の活動を内外に広く伝えています。閲覧数も徐々に増えてきていますので、タイムリーな情報発信に努めてまいります。また、ホームページにリンクを貼っていますのでご覧になってください。

DVD制作実行委員会は、アドバイザーとして市社協の井上氏にも参加いただき「ボランティア協会編」と「ハンディキャブ編」の2本の動画を作成しました。2022年度は、ボランティア、利用者、関係者などに個別にインタビューし、「人」シリーズの動画を月に1番組（5分程度）制作する予定です。

5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健福祉審議会、地域福祉推進協議会、福祉のまちづくり推進協議会、防災市民会議、居住支援協議会、市社会福祉協議会のボランティア・市民活動団体部会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）の運営委員として、SSVの運営に係わっています。

6. 40周年記念事業

1981年6月28日に発足した相模原ボランティア協会は、2021年度に創立40周年を迎えました。これを記念して3月に「40周年記念誌」を作成し、正会員および関係団体に配布しました。

7. その他の事業

（1）法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、組織に必要な配置が十分できておらず、より一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。

事務局運営体制の整備、役割分担については、依然として継続課題となっています。また役割分担については理事会において継続検討事項となっています。

（2）活動財源確保のための活動

会員の皆様には認定NPO法人制度を利用した寄付促進の説明をぼらんていあ通信に掲載しました。

また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」へ参加しています。

(3) 新規正会員勧誘の活動

例年行っているボランティア養成講座や入門講座の最終日に協会やハンディキャブの説明および申込み窓口を開設し、新規会員の獲得を推進することが講座等の中止により2021年度もできませんでした。

当協会のホームページ、市民活動サポートセンターの紹介資料にも掲載しました。

《直近5年間の正会員数推移》

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
正会員数	118名	116名	115名	110名	110名
当年度入会者数	12名	11名	15名	4名	4名
前年度退会者数	15名	13名	16名	9名	4名